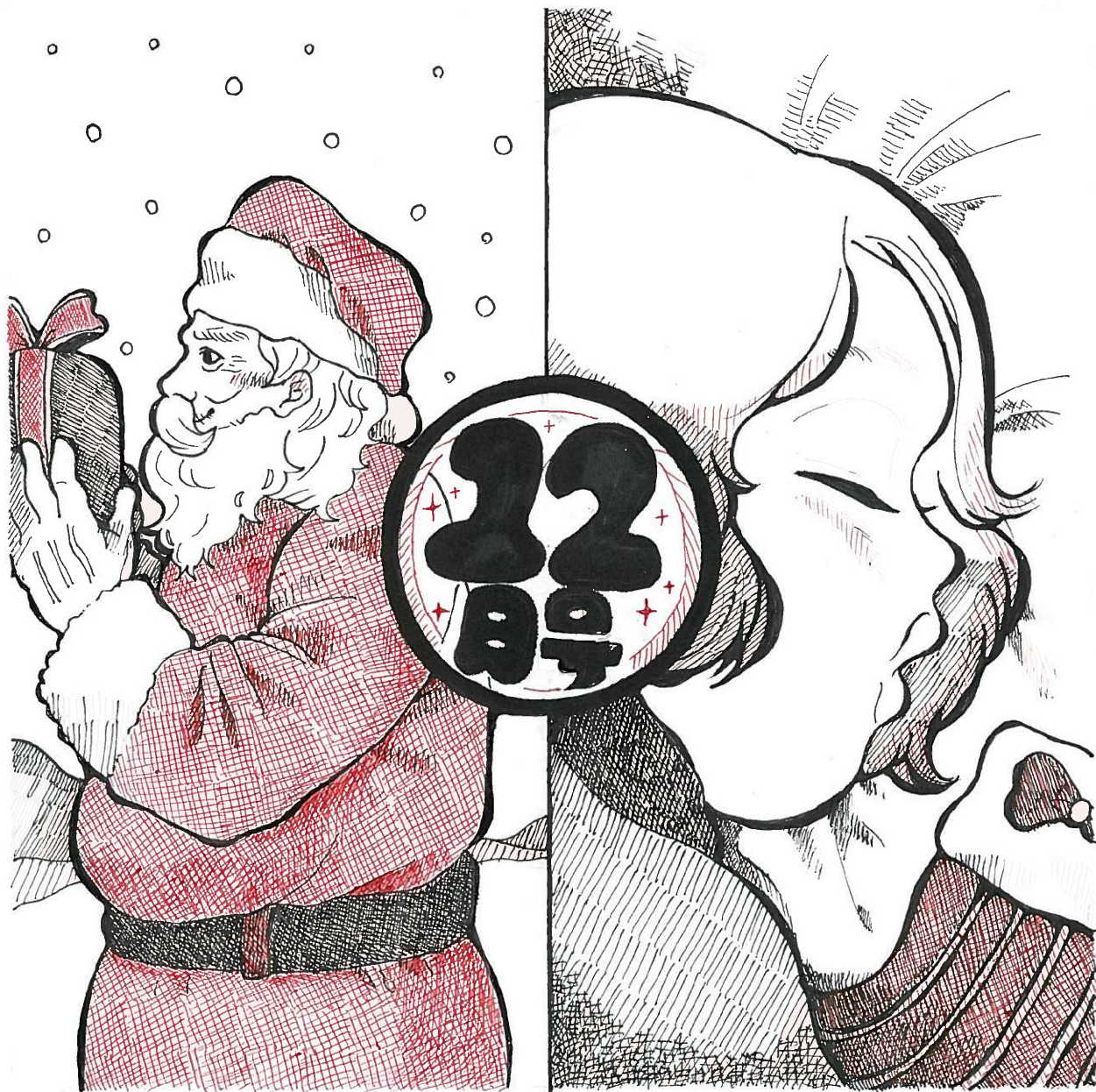


# とよなか国際交流センターおしらせ

**VOL.92** とよなか国際交流センター広報誌 2016年12月



「プレゼントはもうすぐ!」  
判谷更紗(大阪府立桜塚高校2年生)

## とよなか国際交流センターからのおしらせピックアップ

問合・申込 とよなか国際交流協会(指定管理者) ☎06-6843-4343 (水曜、年末年始を除く毎日、9:00~20:00)

**12/9(金) 12:30~14:00**

**思春期の子どもとケンカしない  
関係づくり~お互いを尊重しよう**

講師:北野真由美さん(エンパワメント堺/ES)

対象・定員:外国人、30人

通訳あり(英語、中国語、韓国語、フィリピン語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ネパール語)

一時保育あり:要申込

**12/10(土) 10:00~12:00**

外国人のための多言語子育て・生活相談会In みんなあつまれわくわくランド庄内体育館で開催される、未就学児対象の子育てイベント「みんなあつまれわくわくランド」に、外国人多言語相談コーナーを設けます。生活のこと、子育てのことなんでも相談できます。

会場:庄内体育館

**12/17(土) 13:00~15:00**

この「自由」な世界の中で~フィリピン活動家から学ぶ「移住・労働・貧困」  
フィリピン・セブの社会活動家から、最貧困地域に生きる若者、女性への取り組みや社会の課題について知る。

講師:Emalyn Magdasal Alivianoさん  
定員:30人、先着順(終了後交流有り)

**12/24(土) 14:00~16:00**

平和と共存のための~おまつり地球一周クラブ「ブラジル カポエイラを知ろう!」

ブラジルの文化を学ぶほか、カポエイラの体験をする。

対象・定員:小中学生、15人、先着順(保護者同伴可)

(※参加費は記載がないものは無料、場所は、記載がないものはすべてとよなか国際交流センターです)

11月19日(土)第12回多文化フェスティバルを開催しました。多文化フェスティバルは、2006年に豊中市国際教育推進協議会とよなか国際交流協会の共催で、教育委員会、学校現場の連携のもと、はじまりました。在日・帰国・渡日の多文化な子ども達が主役になって活動できる場を地域から創造する場の一つとして、毎回新たな試みを行うなど、試行錯誤しながら取り組んできました。

今年は、ユネスコスクールでもある豊中市



オープニングで若者の合唱を聴く人たち

立第二中学校の上田校長先生からの開会挨拶の後、豊中市の小学校出身の高校生が作詞作曲をした楽曲の合唱でスタートしました。そ

の後は、国際交流協会が実施している各活動や外国にルーツをもつ子どもたちの「子ども会」(池田市)などが出店する「ブース」にて、紙皿を使った多文化なタペストリー工作や、民族衣装体験や韓国のユンノリなどの遊び、参加する子ども自らがコマをつくれる



外国語体験の模擬授業もありました

“人生ゲーム”などを楽しむ子どもたちで賑わいました。

お昼ご飯は、ベトナム出身のお母さんが作った三種のベトナム料理(ベトナム風厚揚げのトマト煮・鶏肉野菜の魚醤炒め・一口揚げ春巻き)と、フィリピンルーツの若者が作ったバナナトロン(バナナの揚げ春巻)のデザートを味わいました。子どもにも食べや

すい味付けを考えて、一生懸命考案してくれた昼食です。思ったより量が多く、昼食づくりは日本語ボランティアさんや飛び入りの保護者さん・第四中学校夜間学級の生徒さんたちに手伝ってもらい、なんとか150食を作り上げることが出来ました。

ユネスコスクールの取組や、若者が主催した写真展、豊中市内の「国際教室」の紹介などもあり、豊中市や池田市での外国にルーツをもつ子ども・若者たちの活動を沢山知ることが出来た一日でもありました。来年度も、たくさん子どもやおとなが元気になって帰ることができるような「多文化フェスティバル」を目指したいと思います。



元気いっぱい遊ぶ子どもたち

コラム

外国人相談あれこれ(第44回)



吉嶋かおり(外国人のための多言語相談サービス・相談スタッフ)

日本人の夫から離婚を求められたが、離婚したくない、という相談が時々あります。話を聞くと、たいていはひどい夫です。「そういう夫を愛している?」と聞き進んでいくと、本当は離婚したいと言います。ですが、子どもがいない場合、離婚すると在留資格を失い、日本に住み続けられなくなります。離婚したくない、というのは、それが大きな要因でした。「発展途上国」から来た外国人女性にとっては、帰国は死活問題になるからでしょう。「何とか日本で生活していけないか?」と聞かれます。ですが、それはほぼ不可能なのが現実です。

日本で起業・経営していたが、上手くいってないので、お金を貸してくれるところはないか、生活費を支援してもらえないか、という相談があります。この在留資格では福祉支援を受けることはできません。また資金調達は、多くの起業家と同様、それほど簡単なことではないでしょう。

技能実習生として就労していたが、思っていたような仕事ではなかった。疲れたし、しばらく休みたい、別の仕事をしたいという相談もあります。技能実習生は特別な理由がない限り、

転職できません。

こういう相談は、どれも「思うようにならない」悩みや問題です。法制度を越えて何とかすることが不可能なこともあります。こういうとき、私は基本的には何もできません。ですが、そのなかで、相談者が自分の人生をどう考え、選択し、行動していこうとするのかを一緒に考えます。

「ゲド戦記」の翻訳者として知られる清水真砂子さんが、社会的弱者という視点は、強者にとって心地良い枠組みである、ということを書いていました(「子どもと生きる」河合隼雄編)。「弱者」には「強者」が対峙していて、それは決して入れ替わることのない枠組みです。その中で、強者は、弱者が弱者らしく振舞うことを期待しており、弱者らしく振舞わないことに、強者は違和感や居心地の悪さを感じるといいます。そうすると、「弱者支援」は、実は、いつも弱者のままにしておく支援になります。

相談員というのは、ボクシングのセコンドみたいな存在なのではないかと思えます。相談者は「選手」です。私は、対戦相手についての

適切な情報をボクサーに与え、戦略を練ります。他の専門家とチームを作ることもありません。戦いは、具体的な相手があることもあれば、自分自身だったりもするでしょう。対戦のために必要な心の力をエンパワーし、実際の技術を促すのが私の仕事だと思っています。決して代わりに戦うのではありません。

清水真砂子さんは、戦いを挑む弱者は、弱者ではなく「敗者」と述べていました。敗者は常に強者と同じ土俵、同じリングにいます。たとえ決して勝つことがないとしても。

先のような相談では、「何とかならないか」「何とかしてもらえないか」と言われることがあります。しかし、他者に何とかしてもらって弱者になるのではなく、置かれた状況の中で、自分が大切にしようとしていることを見つけ、主体性を持ち、自分の人生を生きてほしいと思って支援をします。たとえ敗者になるとしても、強者への従属を離れ、孤高の主体性を持つとき、それは輝ける敗者なのではないでしょうか。



## ご報告

### 留学生・ホストファミリー事業 今年度の活動状況について

留学生・ホストファミリープログラムは、登録したボランティアが家族ぐるみで留学生と交流する事業で、現在109家族が登録しています。今年度の春は30組、秋は49組のホストファミリーと留学生との出会いがありました。

春の交流会では、万博記念公園へハイキング。お弁当を食べたりゲームをしたりと親睦を深めました。

秋の交流会は、11月13日にポットラックパーティーを開催。参加者が食事を一品ずつ持ち寄り、留学生からは持参した自国の料理やスイーツの説明がありました。また、自己紹介を兼ねたじゃんけんゲームや、マダガスカル留学生によるリズムカルなダンスパフォーマンス、お琴と尺八の演奏や体験があり、最後によさこいチームの迫力ある熱演と会場全員で輪になり踊り満喫しました。

地域在住の市民が主体となった国際交流活動、みなさんも参加なさいませんか？

交流会の発表の様子



## ご報告

### 日本語ボランティア養成講座を 実施しました

とよなか国際交流協会では、毎年「日本語ボランティア養成講座」を行い、市民の皆さんに日本語交流ボランティアへの参加を呼び掛けています。毎年たくさんの市民の方が興味をお持ちで、受付の始まりから30分間電話が鳴り続け関心の高さに驚いています。

今年度は第1回目に田中宏さん(一橋大学名誉教授)をお迎えして、公開講座として養成講座の方だけでなく、普段から日本語活動にかかわる方など多くの方が参加されました。「在日外国人の歴史と現在の課題」と題して先生の体験や戦後から今日までの、日本の外国人施策の変遷や外国人の法的立場などを、時代ごとに分かりやすく説明していただきました。2回目は上村有里さん(とよなかESDネットワーク)からご自身のボランティア体験も含めて、地域ボランティアをする思いや知っておくべきことを参加型で学び、3回目には当協会の山野上事務局長から外国人の現状、とよなか国際交流協会の取り組みと日本語交流活動について話しました。

新日本語ボランティアの皆さん、多文化共生の場「とよなか国際交流センター」へようこそ！



田中宏さんの講演の様子



### なんぢや・カンチャ・言わせてもらえば(第92回)

#### 「中学生につながる思い」

皇甫康子(ふぁんぼ・かんぢや)

授業に呼んでもらえると、自分のモチベーションも上がるし、情勢や子どもの意識を知ることもできます。何よりも、意外な質問を受け、自分の知識を総動員して応える場面に会おうと、わくわくします。教科書に掲載されている朝鮮の民話「三年とうげ」の絵を見ながら、日本との文化のちがいについて話をしています。日本はお箸を使うのに、韓国はスプーンも一緒にならんでいるのは何故なのかと聞かれると、スプーンの種類がたくさんある韓国料理について紹介します。子どもの頃、私の家にはいつも大なべにスープが作ってありました。誕生日にはワカメいっぱいのおスープ、風邪を引いたときには鶏一羽を煮込んだ参鶏湯(サムゲタン)、お客さんが来たときには肉や野菜がたくさん入ったユッケジャン、けがをしたり、元気がなくなったりしたときはテールスープです。豆もやしや干ダラのスープは毎日のように飲んでいました。「在日」が国民健康保険に加入できるようになったのが、1970年代から82年までの間です。それまでは病気になると高額な医療費を自費で払うので、よほどのことがないと医者にかからなかったそうです。病気予防、症状緩和のためのスープでもあったわけです。

温床(オンドル)なので、押入れがないことや、床が固くて正座ができず片ひざを立てて座るので、民族衣装は長いスカートになっていると話すと、文化のちがいには

必ず理由があることに気づいてくれます。布団や衣装に使われる、青や赤、黄に白、黒の5色の模様は、それぞれに意味があり、悪い気を防いで無病長寿を願う子どもの衣装にも取り入れられています。日本と韓国、朝鮮の文化を比較して語るができるのが「在日」の強みです。同時に、自分たちの生活の中に残っている祖国の文化を確認することもできます。

授業で呼んでもらった中学校でも、文化の違う人とどんな出会いをするのかを考える時間にしてもらおうと、写真や私が着ている民族衣装などを見せながら話をしました。「在日」として民族名で生きるとどんな体験をするのかも、実例を上げて説明をしました。自分の子どもたちが中学生のときに遭遇した、嫌な体験を話すと200人以上の中学生たちが静まり返り、その結末を聞こうとしています。一人で差別に立ち向かうのはとても辛いですが、周りの友だちが味方になってくれると本当にうれしいと最後に話すと、質問がたくさん出ました。

「日本人になりたいと思っていたのに、何がきっかけで民族名を名乗るようになったのか」、「誇りを持つということはどういうことなのか」、「もし、友だちから実は『在日』だと告げられたとき、どうすればよいのか」などなど。質問など出ないだろうという予想がはずれ、真摯に答えるとぎりぎりの時間になりました。授業を終えると、数人の女子生徒たちに囲まれまし

た。「在日」の友人がいて、将来について悩んでいるが、自分たちはどうすればよいかわからないと、相談に来てくれたのです。

中学生のとき、部活の仲間から突然、「ひょっとして日本人ではないの」と聞かれたことがあります。ぎょっとして、とっさに出た言葉が「名前が変わっているから、よく間違えられるねん」でした。私の返答に納得していない彼女の顔を思い出しました。45年以上も前のことを忘れていないのは、嘘をついたことへの後ろめたさと、ひょっとして彼女も仲間だったのではと思うからです。すでに名前も忘れ、なぜそんなことを聞いてきたのか確かめることはできません。高校生になってはじめて親友に朝鮮人だと打ち明けたとき、「そんなこと関係ないやん」と言われ、ほっとしたと同時に、釈然としない気持ちも残りました。今まで通りの私が朝鮮人だということを見無視した、友情とは何なのか。結局、その後の付き合いは形だけになってしまいました。

中学生たちが「在日」の友だちのことで悩む姿に癒され、明るい気持ちになります。解決できなくても、自分の立場で何ができるのか、一緒に考えてくれる友だちがほしいですね。もっとはやく、本当の自分の姿を見せる勇気を私も持たせたかったです。

# とよなか国際交流センターの事業について

## 定例事業(以下すべて参加費は無料です)

### 国際交流に関する情報の収集および提供事業

センター内の「ふれあい交流サロン」にて、子ども、おとな向けの書籍をお借りいただけます(多言語絵本もあります)。また、様々な媒体で定期的に日本語、多言語で情報発信を行っています。

### 国際理解推進事業

子ども、おとなを対象とした多文化共生・国際理解の勉強会を随時行っています。「おまつり地球一周クラブ」「市民セミナー」「世界を食べよう」「多文化・多言語セミナー」等

### 在住外国人に対する支援事業

「子ども母語」 第2・4日曜日10:00~12:00

・母語学習(中国語・スペイン語・ポルトガル語・タイ語)を通じて仲間づくり、居場所づくりをしています。幼児・小学生・中学生・高校生が参加しています。スタッフも外国にルーツをもつ学生です。

「学習支援サンプレイス」日曜日13:00~15:00※第1日曜除く

・日本語と学習支援の活動を通じて子どもたちの居場所づくりをしています。小学生・中学生・高校生が参加しています。ボランティアは大学生で、外国にルーツをもつ大学生ボランティアも多数参加しています。

「多文化保育にこここ」 木曜日13:30~15:30、金曜日10:30~12:00

・外国にルーツを持つ就学前の子どもたちが、さまざまな人と出会い、社会性を身につけるばづくりをしています。他…

### 在住外国人に対する相談事業

夫婦関係DV、在留資格、行政手続き、医療、労働、教育、子育て、人間関係等、何でも相談できます。面談でも、電話でもOK。秘密厳守!

毎週金曜日11:00~16:00 (電話06-6843-4343)

対応言語:フィリピン語・タイ語・中国語・韓国朝鮮語・スペイン語・インドネシア語・ベトナム語・英語・ネパール語・ポルトガル語・日本語

### 国際交流活動への住民の参加促進事業

留学生ホストファミリー事業ほか、日本語交流活動にも数多くの市民がボランティアとして参加しています。

### 日本語交流活動

「もっともっとなつかえるにほんご」月曜日10:00~12:00  
 「とよなかにほんご・木ひる」木曜日13:30~15:30(保育活動あり)  
 「とよなかにほんご・金あさ」金曜日10:30~12:00(保育活動あり)  
 「にちようかちやがちやだん」日曜日10:00~12:00※第1日曜除く

地域の外国人とボランティアが会い、日本語交流を通じて生活に必要な日本語を学び、豊かな人間関係を築く場をつくっています。

「おかまち・おやこでにほんご」(場所:岡町図書館)  
 「しょうない・おやこでにほんご」(場所:庄内図書館)  
 「せんり・おやこでにほんご」(場所:千里図書館)  
 火曜日10:00~12:00

乳幼児を抱えて家にこもりがちな外国人女性が子どもを連れて安心して集い、交流・情報交換ができるママづくりの場を図書館の協力のもとで実施しています。運営ボランティアも子育て中の女性です。

…その他、市民参加型のイベントや人権や多文化共生に関する講座、対話の場なども実施しています。また、ボランティアについてのお問合せや国際交流団体の運営相談にも随時対応しております。お気軽にお問合せ下さい。

## 施設管理に関する業務:貸室について

★駅前で便利!★ 会議やイベントにぜひご利用下さい。

センター貸室使用申込み…受付時間:開館日の午前9時から午後8時まで  
 会議室、料理室、音楽・健康づくりルーム、和室、プレイルーム、ギャラリーを初めてご使用になる場合は、事前の登録が必要になりますので、お問合せ下さい。

とよなか国際交流センター貸室使用料金表

部屋名	広さ (m <sup>2</sup> )	定員 (人)	料金 (円)				設備
			午前 9:00~12:00	午後 13:00~17:00	夜間 18:00~21:30	全日 9:00~21:30	
会議室1	41	18	520	720	640	1,880	ホワイトボード(小)
			2,600	3,600	3,200	9,400	
会議室2A	34	21	480	600	520	1,600	
			2,400	3,000	2,600	8,000	
会議室2B	65	48	840	1,120	1,000	2,960	
			4,200	5,600	5,000	14,800	
会議室2C	33	21	440	560	520	1,520	ホワイトボード(2ABC2BCを一室として使用する場合は不可)
			2,200	2,800	2,600	7,600	
会議室3	55	18	520	720	640	1,880	ホワイトボード(大)
			2,600	3,600	3,200	9,400	
会議室4	63	30	840	1,080	960	2,880	ホワイトボード(小)、流し台
			4,200	5,400	4,800	14,400	
会議室5	27	12	360	480	400	1,240	ホワイトボード(大)
			1,800	2,400	2,000	6,200	
和室	38	18	480	680	560	1,720	10畳
			2,400	3,400	2,800	8,600	
ギャラリー	18	-	240	320	280	840	壁画ガラスケース、ピクチャーレール
			1,200	1,600	1,400	4,200	
プレイルーム1	57	20	880	1,160	1,040	3,080	子ども用トイレ
			4,400	5,800	5,200	15,400	
プレイルーム2A	43	15	680	880	760	2,320	子ども用トイレ、畳(一部)
			3,400	4,400	3,800	11,600	
プレイルーム2B	52	18	800	1,040	920	2,760	子ども用トイレ
			4,000	5,200	4,600	13,800	
音楽・健康づくりルーム	113	40	1,480	2,000	1,760	5,240	アンプ・マイク(必要な機材の費用は各使用者負担)、ビデオ、カセット、CD、MD、マイク、壁面鏡、更衣室(ロッカー、洗面台)
			7,400	10,000	8,800	26,200	
料理室	90	30	9:00~13:00	13:30~17:30	18:00~21:30	9:00~21:30	調理台6台のうち昇降式調理台2台、準備室(ロッカー)、洗面台、ホワイトボード
			1,720	1,720	1,560	5,000	
			8,600	8,600	7,800	25,000	

備考 1. 2区分にわたって継続して使用する時の使用料は、それぞれの区分の料金の合計額とします  
 2. 料理室の使用区分のみ、料理室枠内の記載時間とします  
 3. 上段:国際交流目的で使用する時の料金(内容審査あり)、下段:その他の活動で使用する時の料金  
 4. 使用時間には、準備、後片付けの時間を含まず(時間厳守)  
 5. 鍵は時間の5分前からお渡しできます。その際「使用承認書兼領収証」を必ずご提示ください

## 国際交流の活動を応援します!

### 登録グループ制度についてのご案内

とよなか国際交流センターでは「登録グループ制度」を設置し、国際交流の活動に組織的かつ継続的に取り組む方々の自主的な活動推進のための支援を行っています。

#### 登録グループへの支援内容(一部)

- ・国際交流目的で貸室を毎月2コマ(午前・午後・夜間のいずれか1室につき1コマ)まで無料で使用できます。
- ・センター内の掲示板で情報提供できます
- ・印刷機が無料で使用できます(紙は要持ち込み)

・センター内のロッカーが無料で利用できます。…など

その他、登録グループになるための要件、登録後の役割等については「登録グループ制度要項」に詳細に記載しています。豊中市のウェブサイトからもダウンロードできますので、ご関心のある方はご覧下さい。https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken\_gakushu/kokusai/tourouguru-pu.html

もしくは、当センターの受付でも入手可能ですので、お問合せ下さい。

### 「登録グループ活動紹介」の冊子をセンター受付にて無料配布中です



～地域や学校での国際理解教育にお役立て下さい!～

### 各国の民族衣装などを貸出します!

豊中市の公的教育機関は貸出料無料! 詳細はHPもしくはお電話にてお問合せ下さい。

【お問合せ】 TEL 06-6843-4343 FAX 06-6843-4375

とよなか国際交流協会(指定管理者)

Facebook! ほぼ毎日更新中! 「公益財団法人とよなか国際交流協会」で検索!

開館時間: 午前9時~午後9時30分 / 業務受付時間: 午前9時~午後8時 休館日: 毎週水曜日、年末年始

アクセス: 阪急宝塚線「豊中」駅から徒歩1分(阪急梅田駅から急行で11分)

地下3階に有料駐車場有り(210台)、1階に有料駐輪場あり(自転車・バイク)

編集・発行 公益財団法人とよなか国際交流協会(とよなか国際交流センター指定管理者)

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1-1-601 とよなか国際交流センター

E-mail: atoms@a.zaq.jp http://www.a-atoms.info



●アクセス: 阪急宝塚線「豊中」駅から徒歩1分